



みらいっうしん

3月号

2018年3月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子



少しずつ、暖かくなって参りました。園庭の梅の花がほころび、「きれいだねえー」と言いながら傍に寄って来た子ども達と一緒に梅見をしました。何とも言えず穏やかな雰囲気にもまれ、至福のひと時でした。

もうすぐ、本年度も終わり、また、新しい年度が始まります。子ども達の1年間の成長は著しいものがあり、伸びていく音が聞こえるようです。

子どもを育てる過程では、楽しいこと、うれしいことがたくさんありますが、時には悩み、迷い、困ったなと思うこともあるでしょう。

子ども達を見ていると「貯め込んでいる時期だな」「あっ、スイッチが入ってるな」などと感じることがあります。一人一人、その成長の振幅、区切りが異なります。そして、貯め込む期間は短期ではなく、時間を要します。先日の講演会で「親が思っているように子どもを育てようとしても、決して上手くいかない。」という話を聴き、子どもとの向き合い方にこのような考えもあると少し立ち止まってみることも必要かなと思いました。小さな子どもが何でも親の理想の姿になったら、どうでしょう？親の期待に応えようとストレスを感じたり、言われたことができないことで、自分はダメな子という思いになり自己肯定感がもてなくなったり。反対に、言われたことを理解して、素直に行動をする。親を困らせることが何もなくいつも「いい子」であったらどうでしょう？親は楽になるかもしれませんが、本当にこれでよいのと返って不安になるかもしれませんね。

大人が自分自身を省みて、周りの状況を理解し、よりよく生きていくために気持ちを変えられるようになったのはいつ頃なのか、講師の先生は早くて、「中学生」頃かな。人それぞれに違いますが、定年を過ぎ高齢になって、やっとスイッチが入るようになったと笑いながら話されていました。

大人たちが自分の生き方を振り返ってみた時、どうでしょうか。自分の身の回りのこと、人間関係、目的をもって努力すること等々、いつ自覚して、やる気スイッチが入ったのでしょうかね。子ども達は今、貯め込んでいます。表面的には見えにくく、理解しにくかったり、反抗やマイナスと捉えられる姿を見ることがありますが、それらのことが、形をかえて、自立心や協調性、思考力や豊かな感性や表現力などになっていくと考えています。講師の先生は小さい内に何事もしっかりと躰けることが将来のためによいことという考えは、もはや「迷信」であると言い切っていました。考えは一つではありませんが、遅れをとってはいけないと、焦ることはないのだと思います。子ども達の持っている「秘めたる可能性」を信じて、一人一人の子ども達を見ると、本当に輝いています。日常の中で目にします。きらっと光る人を思いやる心、大人になった時どのような力となって開花するだろうかと思像できるすばらしい力。

すべての経験が刺激となって心や体を育てています。みんな、楽しみで可愛すぎる子ども達です。惜しみない愛情をたっぷり注いで見守っていきましょう。



今年度もワクワクげきじょう等の行事に多数のご参加有難うございました。様々な行事を通して、本園の大切にしている事が伝わったのではないかと思います。アンケートから「当日迄に、帰りの時間や数回のお便りで、子どもたちが劇ごっこを作り上げていくプロセスを知り、驚きました。子どもたちの意見や個性を汲み取り、輝かせていて、まさに理想の保育だと思いました。」また、大学教員からは、「運動会、みらいらんど、ワクワクとバラバラではなく、全てがひとつに繋がっていて、本当に子どもたちの中から出てきているものになって、しかも、主体的な子どもたちの表現力が見事に実を結んでいるのですね。だからこそ今の成長が見えます。」という感想が有りました。子どもの力を引出し、導き、そっと見守って支える保育者。友だち同士、助け合い、心を通わせながら、少し恥ずかしいけれど、勇気を出して、楽しみ頑張った子どもたちです。これからも、一人一人の歩みに寄り添っていきたいです。(副園長 久富)